

平成 20 年度（2008 年度）博士課程出願者に対する提出課題

「共生のための国際哲学教育プログラム」出願者に係わる標記提出課題は、以下のとおりとする。
出願書類は**所定の入学願書**（出願書類冊子に綴じ込んでいる）を使用し、志望専攻の（分野）の欄に「共生のための国際哲学教育プログラム」と**朱書き**すること。なお、提出期間等は、出願書類冊子 4 頁のとおり。

「共生のための国際哲学教育プログラム」

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<ol style="list-style-type: none"> 1 『論文』 平成 20 年 3 月に大学院修士課程を修了見込みの者で、修士論文またはそれに準ずる論文を書いた者は、コピーを 3 部提出すること。 2 上記 1 以外の者は、現在もっとも関心を持っている研究課題を、共生のための国際哲学の見地に立って論文にまとめ、コピーを 3 部提出すること。 3 『論文要旨』 上記 1、2 いずれの場合も、論文が日本語の場合は、外国語による要旨のコピーを 3 部、論文が外国語の場合は、日本語による要旨のコピーを 3 部添えて提出すること。 4 『研究計画書』 大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」のコピーを 3 部提出すること。 	<p>イ 左記 1、2 の論文が、英語、フランス語、ドイツ語、中国語以外の外国語の場合、日本語による全訳のコピーを 3 部提出すること。</p> <p>ロ 左記 3 の論文要旨は、A4 判用紙 3～5 枚程度とする。外国語による要旨は、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、スペイン語、イタリア語のいずれかによるものとする。</p> <p>ハ 左記 4 の研究計画書は、日本語で、A4 判用紙使用 2,000 字程度とする。</p>
社会人特別選抜出願者	<ol style="list-style-type: none"> 1 『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題を、共生のための国際哲学の見地に立って論文にまとめ、コピーを 3 部提出すること。 2 『論文要旨』 上記 1 の論文が日本語の場合は、外国語による要旨のコピーを 3 部、論文が外国語の場合は、日本語による要旨のコピーを 3 部添えて提出すること。 3 『研究計画書』 上記 1、2 のほか、大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」のコピーを 3 部提出すること。その際、社会人としての経験を大学院における研究にどのように反映させるのか、また、大学院修了後、研究成果を社会生活にどのように還元する予定かという点について、特に留意すること。 	<p>イ 左記 1、2 とも、使用言語・枚数等については、一般出願者の規定に準ずるものとする。</p> <p>ロ 左記 3 の研究計画書は、日本語で、A4 判用紙使用 2,000 字程度とする。</p>
外国人出願者	<ol style="list-style-type: none"> 1 『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題を、共生のための国際哲学の見地に立って論文にまとめ、コピーを 3 部提出すること。 2 『論文要旨』 上記 1 の論文には、外国語による要旨のコピーを 3 部添えること。 3 『研究計画書』 大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」のコピーを 3 部提出すること。 	<p>イ 左記 1 の論文は、日本語で 20,000 字前後とする。</p> <p>ロ 左記 2 の論文要旨は、A4 判用紙 3～5 枚程度とする。外国語による要旨は、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、スペイン語、イタリア語のいずれかによるものとする。</p> <p>ハ 左記 4 の研究計画書は、日本語で、A4 判用紙使用 2,000 字程度とする。</p>

※なお、口述試験の際に、受験者は提出論文のコピーを持参すること。その論文の内容と入学後の研究計画を冒頭に要約して述べることが求められる。